

# 摂南大学枚方キャンパス8号館

SETSUNAN UNIVERSITY HIRAKATA CAMPUS BUILDING No.8

No. 07-015-2021作成

新築  
学校

発注者	学校法人 常翔学園	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社鴻池組 KONOIKE CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社鴻池組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 恵まれた自然環境をキャンパスとしての魅力につなげた講義実習棟

自然と眺望を活かす…内外をつなぐ連続した共用スペース

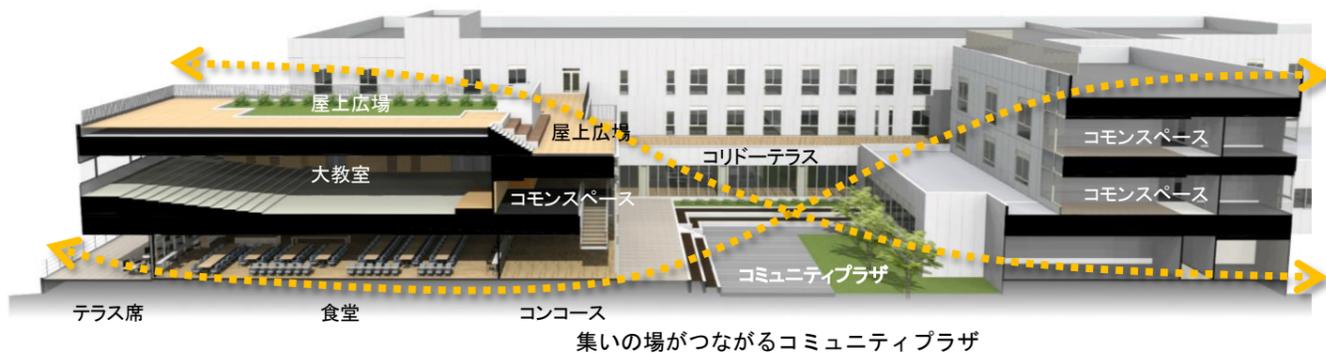
大阪府枚方市から京都府八幡市にかけて広がる丘陵地に位置する摂南大学枚方キャンパスは、有名な八幡竹の竹林に囲まれた豊かな自然と京都盆地を見晴らす眺望に恵まれた環境にある。新たに開設された農学部講義実習棟である新8号館は、既存のキャンパス建物群との調和とともに新たな魅力創出が求められた。建物は低層3階建のロの字型配置とし、講義室ゾーンを既存棟との連携に配慮して南側へ配置、桜並木や眺望に恵まれた東側には食堂や屋上広場を設けるなど敷地の特性を最大限に活かすゾーニングとした。また、建物をロの字型にすることで生まれた中庭「コミュニティプラザ」を核とし、内外の集いの場をつなぐように配置することで交流を誘発し一体感の感じ合える環境を創出を目指した。1階は北側ゲートエリアと南側既存棟エリアを結ぶコンコースと名付けたメイン通路を軸として、外部プラザや食堂、談話コーナー、ラーニングcommonsなどを連続して配置。また、各階廊下にはコミュニティプラザに面するようにcommonsスペースを配置する他、2、3階にはテラスや屋上広場を重層的に設けた。様々な集いの場がコミュニティプラザを中心に平面的立体的につながることで、離れた場所でもそれぞれの活動を感じ仲間とつながることができる。内部仕上げには京都府産杉材を用いて地域と自然を感じてもらおうなど、学生の様々な過ごし方に応える豊かなアメニティ空間を提供することを追求した。



鳥瞰写真（手前が新8号館）

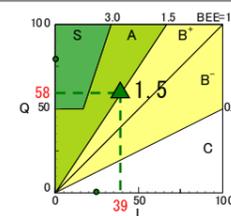


コミュニティプラザ



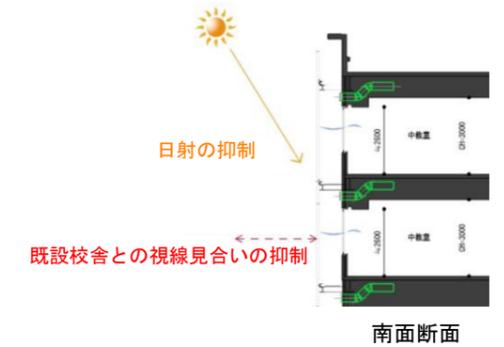
集いの場がつながるコミュニティプラザ

建物データ	所在地 京都府八幡市	省エネルギー性能 LCCO <sub>2</sub> 削減 14 %	CASBEE評価 Aランク BEE=1.5 2016年度版 自治体提出
竣工年	2020年		
敷地面積	32,231㎡		
延床面積	17,818㎡		
構造	S造		
階数	地上3階		



環境配慮手法をデザインに…ルーバーとパネルのダブルスキン

講義室が配置された南面外周部にはアルミのルーバーとパンチングパネルで構成された透過する外皮をまとわせることにより、日射抑制と近接する建物からの視線制御を実現した。自然と生きる農学部としての多様性をデザインとして表現するとともに、環境性能を向上させることによりBPImは0.54となった。呼吸する外皮として自然換気も十分に確保できCASBEEのAランクを実現した。



南面断面



南面 外観

工事中の廃棄物抑制…床ハーフPCの採用

新8号館は建築面積が広大であったため、1階スラブにハーフPCボイドスラブを採用することで型枠等の現場発生廃棄物を大幅に削減した。また、作業中の騒音の抑制や工期短縮にもつながり、キャンパス内環境の保全にもつながった。



1階床施工中写真

設計担当者

統括：奥村朋孝/建築：真弓博行/構造：浅井 純、福原哲夫、設備/川原淳一

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（地場産木材の採用、内外空間の憩いのスペース創出）
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制（BPIm性能、複層ガラス、アルミルーバー+パネルによるダブルスキン）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（1階床スラブのハーフPC化）
- Z. その他（中庭を中心としたcommonsスペースの連携）